

## 2. イサザ等特産種資源対策研究費

### 1) ブルーギルの分布とその食性について

大山明彦・田中秀具・鈴木隆夫・孝橋賢一・片岡佳孝（生活衛生課）

【目的】近年ブルーギルが異常に増加しており、在来種への影響が懸念されている。しかし、その分布は偏在しているように思われる。一方その食性は、琵琶湖では寺島（1977）が報告しているが、時間の経過とともに餌環境も変化し、食性も変化していると考えられる。今回この調査では、昨年度より継続して、琵琶湖での分布状況および食性を把握することを目的とした。

【方法】（分布）1999年5～9月に表1の計15カ所で、また2000年5～7月、近江八幡市牧・草津市山田・同矢橋・大津市真野の計4カ所で小型曳網によるサンプリングを行った。採捕した生物は10%ホルマリンで固定し、同定・体長等の測定を行った。

（食性）1999年4月28日に草津市山田にて釣りでのブルーギルの採捕を行い、小型曳網で得たブルーギル標本の一部と併せて計333尾の胃内容物を調査し、餌生物の出現頻度（魚の総数に対してある餌生物が出現した魚の個体数の割合）を求めた。

【結果】（分布）小型曳網では合計920尾のブルーギルが採捕された。調査地点15カ所のうち、ブルーギルが出現したのは近江八幡市牧・草津市山田・同矢橋・同下物・大津市衣川・びわ町南浜・安曇川町船木・西浅井町月出・湖北町延勝寺の9カ所であり、一曳網当たりブルーギルの平均採捕尾数が最も多かった地点は、衣川の11.33尾であった。

（食性）餌生物の出現頻度は、全体ではミジンコ類が最も高く69.97%、ユスリカ類が68.17%、ケンミジンコ類が36.64%と続いた。（図2）一方体長別に見ると、ミジンコ類、ケンミジンコ類は全ての体長区分で見られ、特に体長60mm未満ではミジンコ類の出現頻度が最も高かった。ユスリカ類は体長20mm以上から出現し、体長60mm以上ではミジンコ類に変わって出現頻度が最も高くなった。（図3）

今回の調査結果と寺島（1977）の結果を比較すると餌生物の組成が大きく異なっており、寺島（1977）の結果では餌生物としてエビ類が75.9%と最も高かったが、本調査ではエビ類は0.60%であった。（図4）

表1 調査地点概要

地点名	場所の概要
能登川町大中	薄いヨシ帯形成、砂質、波当たり激しい
近江八幡市牧	深いヨシ帯形成、泥質、濁りあり
草津市山田	株立ちが多いヨシ帯、砂泥質、濁りあり
草津市矢橋	ウキヤガラ群落、砂質、水草よく繁茂
草津市下物	薄いヨシ帯形成、砂泥質、水草よく繁茂
大津市衣川	ヨシ帯、水草繁茂、湾奥部、砂泥質
大津市真野	ヨシ帯、砂質、波当たり良
びわ町南浜	ヨシ帯、砂質
今津町桂	薄いヨシ帯、砂礫質、波当たり良
高島町鶴川	砂礫質、水深急深
安曇川町船木	深いヨシ帯、奥部泥質、沖合部砂質
新旭町針江	深いヨシ帯、砂質
西浅井町二本松	砂礫質、水深急深
西浅井町月出	ヨシ帯まばら、水草繁茂、砂礫質
湖北町延勝寺	深いヨシ帯、泥質、水草多く繁茂

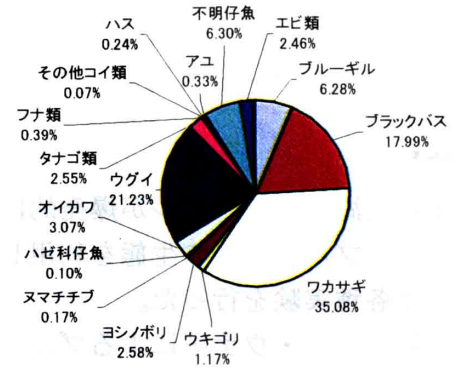


図1 全調査地点での出現生物の割合 (n=14332)

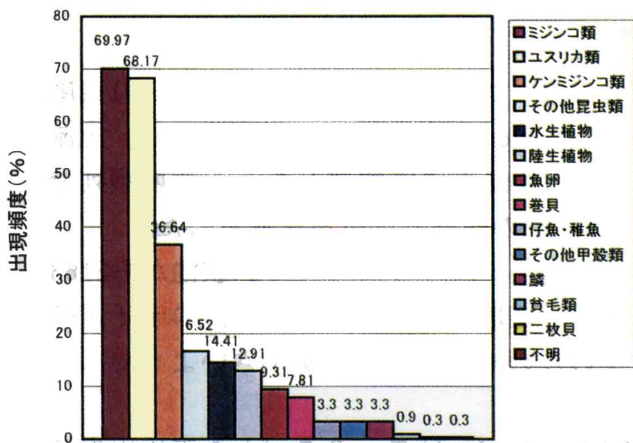


図2 ブルーギルの食性

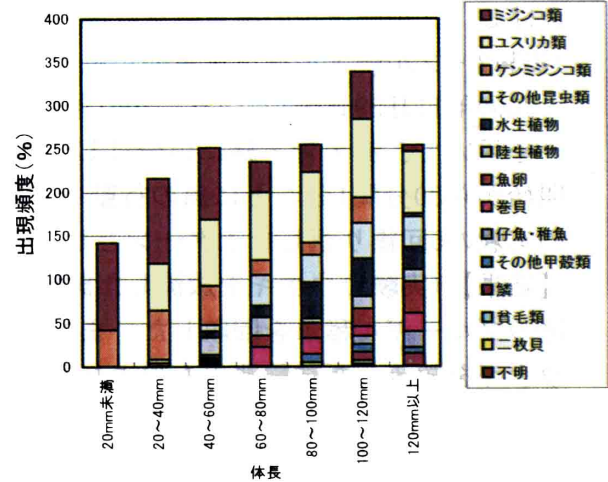


図3 ブルーギルの体長別餌生物組成

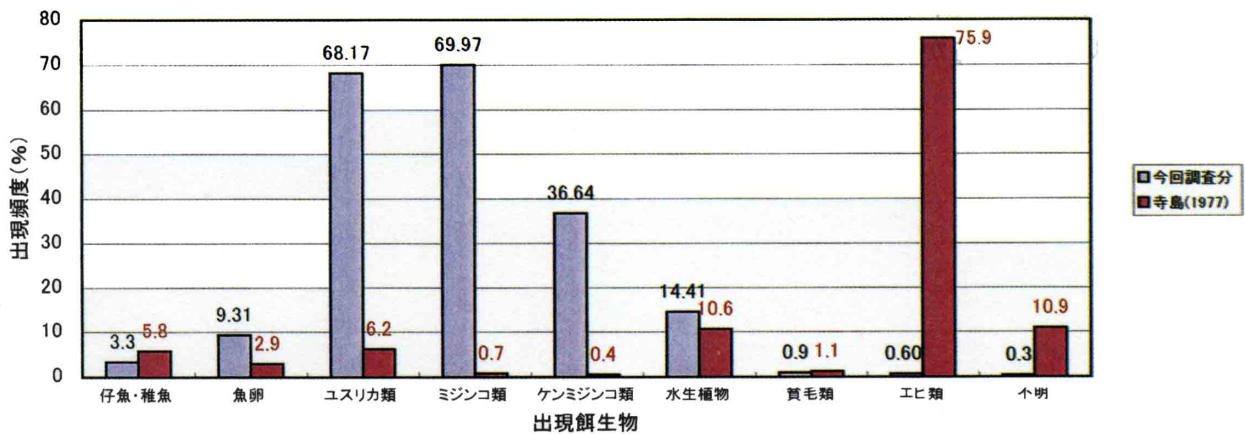


図4 本調査結果と寺島(1977)の調査結果との比較